

第 3 9 4 回三木市議会定例会 市長 閉会あいさつ

令和 8 年 9 月 3 0 日

閉会に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

このたびの定例市議会におきましては、去る 8 月 2 8 日の開
会以来 3 4 日間にわたり、本市における環境負荷の低減を図り、
持続可能な循環型社会の形成を推進するため、環境保全負担金
を求める条例制定等の案件に加え、吉川地域における施設一体
型小中一貫校の整備に向けた基本設計及び実施設計業務、並び
によかわアフタースクールの運営における民間活力の導入に係
る債務負担行為を設定するほか、本年 6 月の豪雨により被災し
た農地の早期復旧など、緊急を要する経費についての補正予算、
その他工事請負変更契約の締結に関する案件などについて、ご
審議をいただきました。

議員の皆さまにおかれましては、終始ご精励を賜り、本会議
並びに各常任委員会において、それぞれ慎重なるご審議を尽く
されましたことに対しまして、敬意を表する次第です。

おかげをもちまして、このたびの市議会に提案いたしました議案につきましては、適切なるご決定を賜りましたことに、厚くお礼を申し上げます。

なお、「令和7年度各会計決算の認定」に係る議案につきましては、別途、決算特別委員会において、引き続き審査をいただくこととなりました。

委員の皆さまには、十分なる審査の上、認定をいただきますようお願い申し上げます。

さて、このたび、令和9年度から令和13年度までの5年間を計画期間とする「第2期三木市財政健全化計画（案）」を取りまとめました。第1期計画では、事業の総点検による各種事業の見直しに取り組み、市民や関係の皆様のご理解とご協力のもと、令和4年度から令和7年度までの4年間で約20億円の収支改善を果たしています。

第1期計画の効果をもとに、令和9年度からは、「少子高齢化や人口減少に合わせた事業の見直し」と「まちの魅力や活力を高める施策」の両立に取り組む期間とします。近年の急激な物価高騰や人件費等の上昇、行政手続きのデジタル化や自動化、

防災などのさまざまな社会課題への対応、さらには、今後の人口減少社会における働き手不足を前提とした組織や行政運営の在り方そのものの見直しについて、迅速な対応が求められています。今後は、これまで以上に効率よく、効果的な市民サービスを提供する体制を再構築し、さらなる生産性向上に取り組んでいく必要があります。

そこで、第2期計画では、「支出の最適化」と「収入の確保」の2つの視点から、「内部事務の見直し」と「既存事業の見直し」を進めます。昭和57年に発足した中曽根内閣では「増税なき財政再建」を掲げ、積極的な行財政改革が進められました。行財政改革の旗振り役を担う「第二次臨時行政調査会」で会長を務められたのは、日本経済団体連合会（経団連）の元会長であり、自分の利益や欲望、名誉欲を一切捨てて、公のために尽くした「無私の人」と言われる土光敏夫氏。「社会は豊かに、個人は質素に」を信条とする土光氏らによる調査会の答申に基づき、国鉄、電電公社、専売公社の民営化を断行するなど、徹底的な歳出の削減を行いました。この精神を踏まえ、可能な限り市民に更なる負担をお願いするのではなく、歳出の見直しと効率化を中心に取り組むことで、財政健全化を実現させたいと考えています。将来にわたり持続可能な財政運営を確立し、次期ごみ

処理施設、中央公民館等複合施設、施設一体型小中一貫校などの未来の三木市に必要な施策を推進し、いつまでも住み続けられるまちづくりを進めてまいります。

また、11月29日には、三木市文化会館大ホールで「三木城トークショー」を開催します。現在放送中のNHKの大河ドラマ「豊臣兄弟！」を契機とし、三木の歴史を一層PRするために「HIDENAGAフェス」として年間イベントを実施しており、このトークショーの実施によりさらに多くの方々に三木市を知っていただきたいと思います。お城好きの落語家として知られる春風亭昇太氏と、城郭研究の第一人者である中井均氏をお招きし、別所長治と織田信長方の羽柴秀吉が争った三木合戦の舞台となった三木城をテーマに、その魅力や歴史資源としての活用について語っていただきます。参加費は無料としており、来月1日から申込を開始しますので、ぜひご参加いただきたいと思います。

朝夕にようやく秋の気配を感じるようになり、昼夜の寒暖差が大きい季節となってまいりました。

議員の皆さまにおかれましても、くれぐれも健康にはご留意

いただき、引き続き、市政の発展のためにご活躍くださいます
ようお願いを申し上げ、閉会のあいさつといたします。

ありがとうございました。